

## ＜文学部人文学科のカリキュラムポリシー＞

「同朋和敬」の精神を教育の根幹として、文学・歴史・思想・文化の各分野におけるアカデミックな教育を通じて人間そのもののあり方を考えるための普遍的な真理を探究し、今という時代を生きる「教養力」「思考力」を育むことを教育目的とします。

わたしたちの生きている社会は、時代的要求によって形成される表層的な現実と、その背景に普遍的に潜在している深層の真理とが関係性をもってできあがっています。同朋大学の人文学科では、表層に留まることを避けて真理の深みに踏み込み、現実と真理の接点に実在する自我の存在の価値を見いだして欲しいと願ってカリキュラムを組み立てています。

1. 基礎的な条件として、幅広い教養を修得するために、「教養共通科目」「外国語科目」を選択必修として設置しています。また、仏教精神を基盤とする本学の願いを時代感覚に即して理解してもらうための科目として「宗教と現代（釈尊と現代）」「宗教と現代（親鸞と現代）」も必修としています。
2. 高校までの「学習」に対して、大学での「主体的探究」への研究方法の変化を理解してもらい、徐々に専門性に転じていけるよう、「基礎演習（Ⅰ～Ⅳ）」を必修として設置し、段階を追って主体的な学びができるように配慮しています。
3. また大学での研究には、高校までのカリキュラム課程にはなかった新たな基礎的技術能力が必要になります。そのため「基礎学」を選択必修として設置し、学生の研究目的に必要な基礎技術が身につくよう配慮しています。
4. 本学科のカリキュラム構成の上で意識されているのは真の「教養力」「思考力」です。「人が何を考え、どう行動してきたか」という問題の本質を追究することで、「今」という時代に生きる自分を的確に見つめ、社会で活躍していくための力を身につけます。人文学の基盤となるそのような考え方を学ぶために、「現代教養概論（ⅠⅡ）」を全専攻の必修科目として1学年に設置しています。
5. 3 学年、4 学年ではゼミナール形式の「人文学演習（Ⅰ～Ⅳ）」を必修としています。学生は1 学年、2 学年での学修を経て、3 年次からは興味ある課題を主体的に見だし、その指導を受けるに相応しい「人文学演習」を選んでアカデミックな研究段階に入ります。
6. 4 年間の研究の成果として、卒業論文（課題）を必修としています。その作成過程では、「人文学演習」担当の教員が、小人数クラスの特性を活かして、履修者の進度に適応したきめ細かく丁寧な指導をします。そのため4 年次には「卒業論文指導」科目を用意しています。